

妹とあま～く蕩ける
天使の口り声耳舐めエッチ♪

■ Track: 1 : 亂—乱想—乱想—乱想

●主人公の部屋（昼）

加奈

「（ナレーション）……来月から大学生になるおにーちゃんは、ひとり暮らしをする。ずっとお家にいて欲しいのに……。引っ越しのお手伝いをしていると泣きそうになっちゃう」

「他にダンボールに入れるものある、おにーちゃん？
えつ？ 教科書と参考書？ 受験は終わってるの
に必要なの？」

「あ、わかつた。復習するかもしれないから、で
しょ。えへへ。おにーちゃんのことなら、わたし、
何でもわかつちやうんだから」

「でも、ひとり暮らしをしたいって思ってるなんて知らなかつたなー……。大学つて電車で一駅でしょ?
家から通うんだつて思つてた」

「…………それで…………ね？…………どうしてひとり暮らしを
したいの？…………お家が嫌いになっちゃったの？」

「…………。おにーちゃん？ 答えてくれないの？ わたしには言えない理由なの？ ……そつか。言えないんだね」

加奈

「（氣を取り直して、それができずに焦りながら）
へ、変なことを聞いてごめんね……！ えっと、お
詫びってわけじゃないけど、おにーちゃんのいうこ
と、何でも聞いてあげる」

「…………えつ？ うん。 本當だよ。 何でも聞いてあげるよ？」

「…………ん？ これは…………CD？ 」のCDと同じ事を
して欲しい？ 同じ事つうどういうこと？ 「それ、
歌だよね？」

「『えーえすえむあーる』って書かれてるけど……ん？ なあに？ 裏側を見ればいいの？」

「ささやき……なんて書いてるんだろう？　いんご？　いんごって読むの？　ささやき淫語で誘惑していく、じえいしー妹？　なんだろう？　お話が入つてるのかな？」

「とにかく聴けばいいの？」うん、わかった。じゃあ、今から聴くことね。

■Track. 2 : 楽曲一覧や再生リスト欲しさの時に使う曲がたくさんあります。

「……お、おにーちゃんいる？ ……あ、いた。どうしてベッドでうすくまつてるの？ なあに？ とんでもない」としてしまった。」

「……それって、わたしに『わざやき注語』のCDを
聴かせたこと?」

「……それで、わたしに『わがわがわが』のCDを
聴かせた」と。」

「…………おにーちゃんの返事がない。ってことば当时的に、なんだ？」

「（CDの内容を思い出して、赤くなつて）……す、すつづくエッチなCDだつたね。淫語つてエッチな言葉つて意味だつたんだね……」

「…………い、いちおー…………覚えてきたよ？あのCDで使われた…………そーゆー言葉…………。わたし、勉強はできるんだから…………」

「……それで、ああいう」とを、わたしがおにーちゃんにすればいいの?」

「…………おにーちゃんの耳元でわざやきながら…………おにーちゃんにHラッシュな」とをするつていつ……」

「……ねえ、おにーちゃん？ ベッドでうすくまつて
ないで、こっちを向いて欲しいな」

〔 〕
やつぱり返事がない。
もういい。
しようがないなあ。

「（耳元で囁かれて）…………」いかを回して、おひやん

「……あの〇〇みたいに囁いたら、やつとわたしを見てくれた。じゃあ、そのまま仰向になつて」

「……そのままじつとこいでね」

「（耳元でわざやくよう）……おにーちゃんがして欲しいのつて」「うう」とだよね？」「つやつて耳元でわざやかながら耳を舐めたりとか……」

「（耳元でわざやくよう）……んちゅ……れろつ……んちゅ……ちゅぱつ……れろつ……くちゅ……」

「（耳元でわざやくよう）……舐めながら……淫語？……えつとエッチな言葉を言えばいいんだよね……？ 例えば……」

「（耳元でわざやくよう）……お、おにーちゃんの……お、おもんちん……硬くなつてる……よ？ わたしのお股……じやなくて、お、お……おまん」も、とつぶに濡れちゃつてるの……」

「（耳元でわざやくよう）……つていうか、女の子の大事な部分を……おまん」……つて言つんだね。初めて知つたよ……」

「（耳元でわざやくよう）……そのおまん」……だけ……エッチな」としてると濡れちゃものなの？……わたしもおにーちゃんとエッチなことしてると濡れちゃうのかな？」「

加奈

「(耳元でやややくよう) あの〇〇みたいに……
…ねちよねちよ……ぐちゅぐちゅつて……エツチな
音、しちやうのかな? はあ……」

加奈

「(耳元でやややくよう) でもね……お股がむ
ずむずするのは本当だよ、おにーちゃん……れろつ
……ちゅつ……」

加奈

「(耳元でやややくよう) それでね、おにー^{ちゃん}……わたしが、れわやき淫語で上手におにー^{ちゃん}を責める」とができた、ひとり暮らし……
…やめてくれる?」

加奈

「(耳元でやややくよう) ……えつ? それはわた
しのがんばり次第? ……ん、わかった。わたし、
ちゅうがんばるね…… じゃあ、エツチな言葉…
…えつと……」

加奈

「(耳元でやややくよう) ……おまん」……れ
るれろり……おまん」お……んちゅつ……
…わたしの……おまん」が……濡れてる
よお……れりり、ちゅつ……」

加奈

「(耳元でやややくよう) はあ……わたし、
ちゃんとじきてるかな、おにーちゃん? ……ん?
された」とがないからわからない?」

加奈

「(耳元でわざやくように) そ、そつか。」「一
ゆー」とするの、わたしが初めてなんだねえへ
へ。嬉しいな……んちゅつ……れろつ……
ちゅつ……」

加奈

「(耳元でわざやくように) もうちゅつと激しく
舐めてみよつか? ……ん、わかった。じゃあ、
やつてみるね……」

加奈

「(耳元でわざやくように) れろつ……んんつ、
れろれろ……おまん」お……くちゅ、んん、れろつ
……おまん」お……くちゅ……れろつ、ちゅつ……
ちゅくつ……」

加奈

「(耳元でわざやくように) おいしく感じるの…
…れるつ……ちゅぱ……ちゅつ、ちゅつ……わたし
のおまん」が……熱じよお……」れね、演技じゃな
くて本当に熱いの……」

加奈

「(耳元でわざやくように) それでね、奥の方が
ムズムズして……れろれろつ……きゅんきゅんつて
してるの……んぱつ……れろつ、れろつ……
ちゅつ、れろつ……んぱつ……ちゅつ……」

加奈

「(耳元でわざやくように) おにーちゃんの耳……
……おいしいかも……不思議だね……味なんてしない
はずなのに……れろれろつ、ちゅつ……れろれろつ
……れろつ……ちゅつ……」

「(耳元でやややくよう) はあ。反対側の耳も舐めてあげるね……」

「……んしおと……ひ……はあ……」

「(耳元でやややくよう) 反対側にと一ちゃんつと……じやあ、」(ひちの耳も……じくよ~)」

「(耳元でやややくよう) はあ……んひ……んふつ……れろつ、れろつ……ちゅつ、れろつ……んふつ……ちゅつ……んちゅつ、れろつ、れろつ……」

「..」

「(耳元でやややくよう) おにーちゃんつてば、耳を舐めてると、ひくひくって震えるんだね。感じてくれるのかな……? ん? 感じてる……? やつたつ。えくく……」

「(耳元でやややくよう) ちゅつ、んくつ、んちゅつ……あ、ニッチな言葉をややくの、忘れてた……んちゅつ……おまえ」(おまえ)はあ……」

「(耳元でやややくよう) れろつ……はあ……んくつ、んちゅつ……」(の耳の穴が……おにーちゃんに)とつての……おまえ」(おまえ)だよ~」

「(耳元でやややくよう) はあ……おにーちゃんの……み、耳まん」を……舐めて……あげる……れろつ、ちゅぱつ……れろれろつ……耳おまん」……おいしこ……はあ……」

加奈

「（耳元でささやく声）…………おこーちゃんの耳たぶつい、おひさまみたいに柔らかい…………はむつはむつ、はむつ…………」の、おひさま…………吸っちゃうよ。」

「(耳元でさわやかよつて) (元) さむい あむい
……ちゅうしおりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ぱつ! はあ」

「（耳元でささやくように）…………次は…………えっと、
いっぱいキスしてたよね、確か。首からだったか
な？ でも、おにーちゃん。して欲しいことがあつ
たら言つてね……」

「（耳元）でささやくように）…………なんでもしてあげるから……ね？　じゃあ、まずはおにーちゃんの身体に乗るね…………」

「んじょつと……それで、ほつぺたからキスを……ん
ちゅつ……ちゅつ……えへへ。ほつぺたちゅーつて
小さい頃はよくしてたよね……」

「…………ちゅうりれろりちゅうりんちゅうぶつ…………」
「…………じゅぱい類ちゅーしちやつた。懐かしいね、お

に一ちゃん。じゃあ、次は……まぶたにキスする
ね。田を聞じて……」

「…………ちゅうりんちゅうりれろり、ちゅう……
ちゅうりまぶたにキスするのつて、ちょっと怖い
ね。ぐのぐらじ強くしていいのかわからないから……
..」

「…………ん? ぐうしたの、おにーちゃん? 」のぐら
いどちゅうびい? うん。よかつた。」ちゅう
側のまぶたにもキスしてあげるね……」

「…………ちゅうりんちゅうぶつちゅうりんちゅう……
ん…………ちゅうりんちゅうはあちゅうぶつ……
ちゅうり……」

「…………はあ……次は首だよね……おにーちゃん、少し
横を向いて……んつ、それでいいよ……」

「…………んちゅ、くちゅ……んつ……れろれろ……
ちゅ……んぶつ……はあ……ちゅむつ……くちゅ……
……ちゅうりゅうぱい、くちゅ……」

「…………あつ……やあんつ……おにーちゃんのおちんち
んが……わたしの……おまんこに当たつてるよお……
..」

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

「…………」やつて腰を動かしながらキスした。「…………あつ……んちゅつ、れるつ……おまん」が…………れるうう……はあ……れるれるつ、ちゅつ……」「

加奈

「…………おまん」ぐすぐつたい……れるつ、ちゅつ……れるつ……おしつ」すると「うむ……むすむすしちやうう……んちゅつ、れるつ……ちゅつ……」「

加奈

「…………」れ、癖になりやう……おまん」……おまん「お……はあ……。あ、わたしが夢中になつちやつてた……。今度は反対の方を向いて……うん。そんな感じ……」

加奈

「…………あちゅつ……くちゅ……ちゅつ……はあ……おまん」、変な感じだよお……れるれる……ちゅふつ、くちゅ、くちゅ……」「

加奈

「…………んちゅつ……んはつ……ちゅふつ……くねくねつて腰を動かしながら……キスするの……れろつ、ちゅつ……ちゅつ……れるれるつ……ちゅつ……」「

加奈

「…………はあ。おにーちゃんの顔にいっぴいキスしちやつた。えへへ。……でもね、おにーちゃん。大事などころにキスしてないよね? わかる? ビニだと感づ?」「

加奈

「うん。 そうだよ。 おにーちゃんの唇だよ?
いーい? 恋人みたいなキスをしても。 。 。
うん。 うん。 やつたつ。 ジャあ、 しちやう
ね。 キス。 」

「……んちゅっ。……はあ。わたし、すつ」「べどんべ
あしてるよ、おにーちゃん。」「つやつて……おにー^{ちゃん}と間近で見つめ合ひながらキスするなんて…
…」

「…………ん？ おにーちゃんも？ どきどきしてるの？
ふくん、 なんだ……えへへ。 なんだか恋人み
たいだね、 わたしたち」

「…………それでね、恋人ならもつとキスするよね…………？
おにーちゃんも、もつとわたしにキスして欲しい？　じゃあ、しちゃうね…………」

「…………んちゅつ…………ちゅつ…………んちゅつ…………あつ。ま
た、おまんこ…………おちんちんが、あたつてる…………
…………ちゅつ…………ちゅぷつ…………ちゅつ…………」

「…………ねえ、おにーちゃん…………大人のキスもしちやうよ？ いいよね？ あのCDでもしてたし…………。じやあ、少しだけ口を開けて、おにーちゃん…………」

「…………えへへ。おにーちゃん、かわいい…………おまんこ
を擦りつけながら…………いっぱいキスしちゃう…………
ちゅつ、れろれろ…………んんつ…………れろれろ…………ちゅ
むつ…………くちゅ…………んん…………」

加奈

「……ああ、おにーちゃんのツバ、おいしい……んつ
ちゅぶつ……くちゅ……もつと……もつとツ
バ、ちょーだい……れろれろ……ちゅぶつくちゅ……
んん……んちゅつ、れろつ……」

加奈

「……ねえ、おにーちゃん。あのCDだと『好き』つ
て言いながらキスしてたよね……？ わたしもそう
した方がいいよね？ うん。じゃあ、そつする
……」

加奈

「……お、おにーちゃん……好き……
くちゅつ、ちゅむつ……好きつ……好きだ
よおつ……んんつ……好き……くちゅ……んふつ
……れろれろ……」

加奈

「……大好きなの、おにーちゃん……れろれろ……
ちゅつ、好きつ……れろれろ……ちゅむつ……好
き……くちゅ……ちゅぶつくちゅ……ちゅぶつ
……くちゅ……」

加奈

「……ねえ、おにーちゃんも舌を出して……もつとH
ツチなキスしよお……？ ……んつ……んつ……
んちゅつ……！ はあ……おにーちゃんの舌……氣
持ちいい……んちゅつ、れろつ……」

加奈

「……くちゅちゅぶつ……れろれろ……はああ
ん……んんつ……くちゅちゅぶつ……」のキ
ス、とつても気持ちいいよお……だから、もつとお
んちゅつ、れろれろつ……」

加奈

「……好き……おにーちゃん、大好き……ちゅ
ぶつくちゅ……んん……！ んふつ……ちゅむつ……
くちゅ……れるれる……ちゅぶつ……
はあつ、大好きだよお……」

加奈

「……ふあつ！ はあ……はあ……はあ……
すつ！」じキスをしちやつたね、おにーちゃん……え
へく……。それに、好き好きって言いながらキスす
るのつていいね……」

加奈

「……えつと、次は……あのCDだと……ち、乳首を
触つてた氣がする。だから、おにーちゃんの服、脱
がせてあげるね。身体、起」せる？」

■Track. 3：おにーちゃんの裸を見ると、じゅわじゅわ

加奈

「じゃあ、おにーちゃん、バンザイしてね。ん、そん
な感じ。んしょつと」

加奈

「……おにーちゃんの裸を見ると、どきどきしちや
う……あつ！ 「めんね、見とれちゃつた。えつ
と……ズボンも脱がせちやうね……」

加奈

「わつ。股間のところが膨らんでる……」これって興奮
してるとなんだよね？ 嬉しいな……え
へく……」

加奈

「おにーちゃん。少しお尻を浮かせてね……んしょつ
と……」

加奈

「ひやつ！ おちんちん、すうぐおつきくなつて
…………？ 興奮すると、こんな風になるんだ……
んだか男らしい感じだね……」

加奈

「一緒にお風呂に入つてた頃は、もつとかわいい感じ
だつたと思うけど……。えつ？ 小さいときと大き
いときだと形が全然違うの？」

加奈

「そ、うなんだ……大きいときは「んな感じなんだね……」

加奈

「でも、こんなに大きいなんて……わたしの中に入る
のかな……？ えつ！？ う、ううんつ！ 何でも
ない……」

加奈

「……えつ？ 自分だけ裸なのは恥ずかしい？ ジャ
あ、えつと……わたしも裸になつた方がいいの…
…？ ……うん。わかった。わたしも脱ぐね……」

加奈

「……そんなにじつくり見られると恥ずかしいよお。
でも、おにーちゃんに見て欲しい……かな。……見
て、わたしの裸でどきどきして欲しい……」

加奈

「……ふえ？ ブラジャー？ ちょっと前からつけて
るよ。おっぱい、大きくなつてきたし……。かわい
い？ えへへ。わたしも、このブラ、お気に入りな
の」

「サイズ？」このブラのサイズは……Cカップだよ。
まだ小さいけど……これからちゃんと大きくなるから。
きっと……ううん、絶対……」

「……ん？ おにーちゃんが外したい？ ……じゃ
あ、いいよ。背中を向けるね」

「……ブラのホック、わかる？ うん。そこを外す
の」

「……あっ。指が背中に当たって……んっ……ちょ
とくすぐったい……」

「……んっ、外れたね。ありがとう、おにーちゃん。
そっち向くな」

「でも……その……おっぱい、見られるの……恥ずか
しくなつてきちゃつた……」

「……えっ？ 見せてくれないと泣いちゃう？ や
だ。泣かないで、おにーちゃん。見せてあげるから
……」

「……じゃあ、おにーちゃんがブラを取つて。……
あっ。……んんっ……おっぱい見られちゃつた。ま
だまだ脇らみかけで、絶対大きくなる……と思つか
ら……」

「…………ふえつ？ 小さいおつぱいの方が好き？ そ
なの、おにーちゃん？ そうなんだ。えへへ：
……よかつた……」

「ん、なあに？ ち、乳首かわいい！？ そん
に見られると隠したくなっちゃうよお……。えつ？
触りたい！？」

「あの〇〇では、そーゅー」とはしてなかつたけど、
おにーちゃんが触りたいのなら……いいよ？」

「……あつ。おにーちゃんの手……熱い……んんつ…
…あつ！ そんな……ゅつくり触っちゃ……ダメつ
……あつ……」

「……自分で触るのとは全然違うよお……あああ…
んつ……やつ、乳首、コリコリしちゃ、ダメえつ…
…！」

「ほ、ほんとにもうだめっ……！ わたしがおにー

ちゃんを気持ちよくしてあげなきゃいけないんだか
ら……！」

「……あ、でも、おにーちゃんが触りたくなつたら…
…いつでも触らせてあげるからね？ その時は言つ
てね……？」

「……じゃあ、えつと、スカートを脱ぐね。……ふ
え？ スカートも脱がせてくれるの？ ジヤ、ジヤ
あ……お願いします……」

加奈 「…………」

加奈 「…………もっとかわいいパンツをはいておけばよかったな」

加奈 「…………あつ。パンツもおにーちゃんが脱がしたいの? う——いいよ……」

加奈 「…………あ、わたし、裸になつちやつた」

加奈 「…………」れでわたし達は裸んぼうさんだね。恥ずかしいけど、おにーちゃんも裸だから……。じゃあ、仰向けになつておにーちゃん。続きをしてあげるから……」

加奈 「…………上に乗るね」

加奈 「…………んつ……あつ、おにーちゃんの胸に頭を乗せたら心臓の音が聞こえてきたよ。すっごくぞぞきしてるね……」

加奈 「…………あと、おにーちゃんのおちんちんがわたしのお腹に当たつてる……硬くて、おっきくて……熱い……」

加奈 「…………それじゃあ、あの〇〇みたいにしゃしゃきながら今度は乳首を触るね」

加奈 「…………」うやつて、きゅつて摘まんで……「リ……リ……きゅ、きゅつて……」

加奈

「……わっ。おにーちゃんがぴくぴくって震えてる……
……そんなに気持ちいいんだ……ふふふ……男の
人って乳首でも感じるんだね……」

加奈

「……ちやんと右も左も同時に刺激してあげるからね
……「リ」「リ」「リ」「リ」あと、えつ
と……」「うやつて乳首の周りに指を這わせて……」

加奈

「……あっ、おにーちゃんがまたぴくぴくって震えて
る……」「うやつてそろつと触るのも気持ちいいんだ
……敏感なんだね……ふふつ……じゃあ、もつとし
てあげる……」

加奈

「……まだ、だよ……まだ乳首は触ってあげない。周
りに指を這わせて……あと一周したら触ってあげる
……」「まだ3分の1くらいだよ……」

加奈

「……そろそろ半分……ん……あとちょっととも
うちょっと……」「……じゃあ、乳首を触ってあ
げる……」

加奈

「……「リ」「リ」「リ」……ああ……おにーちゃん
がすっ」「い仰け反った……」「コリ」「コリ」「コ
リコリ」「リ」……感じてるおにーちゃん、かわい
い……」

加奈

「……今度は摘まんであげるね……きゅっ、きゅっ……
……ああ……おにーちゃんの乳首って弾力があつ
て面白いね……」「リ」「リ」「リ」……きゅっ」

加奈

「…………摘まんで捻つて…………ああ。」
「…………ああ。摘まんで引つ張つて…………くねくね…………くねくね…………。あとは一…………指でひんつて彈くよー」

加奈

「…………ひんつ。もう一回…………ひんつ。…………んー？全
部気持ちいいの？ でも、まだ舐めてないよ？ 舐
めて欲しい？ じゃあ、舐めてくださいって言つ
て、おにーちゃん……」

加奈

「…………うん。よく言えました。ふふふつ。偉いね。じゃあ、このかわいい乳首を舐めてあげる…………れろっ。あんっ。まだビクつて反応した…………」「

「……反対側の乳首もちやあーんと指でコリコリして
てあげるね……くちゅ、ちゅぱつ……んふ……れ
ろれろ……ちゅぱつ……れろれろ……ちゅぱつ……
ちゅぱつ……」

加奈
「……はあ。おにーちゃんの乳首もおいしい……ちゅ
ぷつ……れろれろ……おいしいよお……んぶうん
……ちゅむつ……れろつ、ちゅつ……れろれろつ
はあ……」「……

加奈

加奈

次は反対の乳首を舐めてあげるね……んふうん
ちゅむり……くちゅ……れろれろ……ちゅぱつ
くちゅ……れろつ、ちゅつ……れろれろつ……
「……」

加奈

加奈

「…………反対側の乳首をコリコリしながら……んつ、れ
るおい…………ちゅくんで、くちゅ……むなぱつくちゅ
れるれり…………ちゅぱい…………んい、くちゅ……

加奈

加奈

わたし……乳首をいじられて感じてるお」「一
ちゃんを見るのが好きかもお……ううとりしちやう
……だから、もうちょっとだけ……コツコツコツ…
」

加奈

「あんっ……またおにーちゃんが仰け反った……だん
だん敏感になつてきでない？ なつてきてるよね？
コリコリコリ……はあ……コリコリコリ……」

「……じゃあ、次は、えつと……あの〇〇だと……あ、そうだ」

「……んひ。また、おにーちゃんの隣に添い寝してつと……」

「(耳元でわわやくよう) ……そうそう。」のまま耳を舐めて、乳首も触るんだよね? いーい? また舐めちやうからね?」

「(耳元でわわやくよう) ……れろつ……ちゅぶつ……くちゅ……ちゅく……れろれろ……ちゅぶつ……んちゅつ、れろれろつ……」

「(耳元でわわやくよう) ……はあ。コリコリつていじつたり、きゅつて摘まんだりすると、乳首つてどんどん膨らむんだね……」

「(耳元でわわやくよう) ……ん……添い寝しながらだと、乳首を片方しか触れないね。両方を同時にいじつてあげたいのに……」

「(耳元でわわやくよう) ……あ、そうだ。ねえ、おにーちゃん。身体を起し」して

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

加奈

「わたしはおにーちゃんの後ろに回つて抱きつい
ちゃう。えへく。それでね……」

加奈

「(耳元でわわやくよつて)後ろから乳首をい
じつてあげるの.....」つやつとココココココつて
...」

加奈

「(耳元でわわやくよつて)ああつ.....後ろから
抱きついでるから、おにーちゃんがびくびくって震
えるの、あー」くづわつてぐるな.....」

加奈

「(耳元でわわやくよつて)コココココココ
リコリコつ.....あーうへ.....ふふふつ。いつぱい感
じて、おにーちゃん。ちゃんと耳も舐めてあげるか
ら.....」

加奈

「(耳元でわわやくよつて)ちゅくふつ、くちゅ
あゅぱつくちゅ.....れろれろ.....ちゅぱつ.....
んつ、くちゅ.....れろれろつ.....ちゅつ.....れ
ろつ、ちゅつ.....ちゅぱつ.....」

加奈

「(耳元でわわやくよつて)はあ。エッチな言葉
も言つね.....れるれるつ.....わたしね.....れろれ
ろつ.....おまんこが.....すひく熱いの.....れろれ
ろつ、ちゅつ.....」

加奈

「(耳元でわわやくよつて)おにーちゃんの乳首
を.....れろれろつ、ちゅつ.....いじりながらーん
ちゅつ.....ズキズキしてゐるの.....はあ.....ちゅつ、
れろつ.....ちゅぱつ.....」

加奈

「(耳元でやややくように) ちゅぱくちゅちゅ
むつ……ああつ、おまん」熱いよお……れれ
ろつ、くちゅんつ、ちゅぱつ……おまん」ん
ちゅぱつ……れれれろ……」

加奈

「(耳元でやややくように) おまん」お……ちゅ
むつ……むかむすするよお……くちゅ……んつ、れ
ろつ……ちゅぱつ、れれれろつ……ちゅつ、ちゅ
くつ、れれれろつ……」

加奈

「(耳元でやややくように) はあ。耳たぶを
ちゅつて吸つてあげるね。ちゅううううう……
。それで次は優しく噛んであげる。あむつ、んつ
あむあむつ……はむつ……」

加奈

「(耳元でやややくように) あむつ……はむつ……
……んつ……おにーちゃんの耳たぶもおじし……
はあ……あむつ、はむつ……んつ……ちゅううう……」

加奈

「(耳元でやややくように) えくく。いきなり
吸つたら、おにーちゃんがかわいい嘘を出した
ね……びっくりした? ジャあ、しない方がいい
い? ん? もつとして欲しい?」

加奈

「(耳元でやややくように) だよね。おにーちゃん、
こんなに感じてるんだもん……じゃあ、もつ一
回……ちゅうううううう……ちゅぱつ……」

加奈

「(耳元でやややくよう)(元)……んちゅい……ちゅく
……れろれろり……ちゅぱり……くちゅ……ちゅく
……れろれろ……ちゅぱり……ちゅうり、れろり……
……はあり……れろり、ちゅうり……」

加奈

「(耳元でやややくよう)(元)……今度はそっち側の耳
を舐めてあげるね……」

加奈

「(耳元でやややくよう)(元)……ふつつうううう
うえくく。くすぐったい? 急に」「おんね。こ
ういうのもいいかなって。じゃあ、また乳首をいじ
りながら舐めてあげるね……」

加奈

「(耳元でやややくよう)(元)……くちゅちゅむり……
はああ……ちゅくちゅぱりん……あ、わたし、す
ぐ忘れちゃうね……Hシチな」と、囁くの……ちゅ
ぱり……れるれる……ちゅく……」

加奈

「(耳元でやややくよう)(元)……おにーちゃんのおち
んちん……んちゅり、れろり……触つてないのに……
れろれろり……ぴくぴくつて動いてる……かわい
い……れろれろ……ちゅぱりく……」

加奈

「(耳元でやややくよう)(元)……わたしの……ん
ちゅう、れろれろり……おまんこも……ちゅう……
んちゅう、れろれろり……じゅくじゅくって……濡
れちゃってる……れろり……んこ……ああ……」

加奈

「（耳元で囁かれて）…………パンシ�が濡れしるの
…………せつめうわかるへりごくぢよぐぢよなの…………
わゆり…………くひを…………ねまく」お…………ちをぱつ
…………くわくへ…………ねまく」、驚こよね…………
「」

「（耳元でささやくよう）…………れるつ、ちゅつ…………
おにーちゃんの太ももに…………わたしのおまん」「…………
擦りつけてるの、わかるう？ はあ…………気持ちいい
おまん」「…………れるつ…………」

「(耳元でささやく声) それで、こっちの耳
たぶも……ちゅうひひひひひ……ちゅ
ぱつ! はあ……あむつ……はむつ、はむつ……あ
むつ……んつ……はむつ、はむつ……」

「（耳元でささやかれて）…………」うつむいて裸で抱きついてる、お肌が擦れて気持ちいい…………おひちやんの体温、直接わってきて…………おまんこが、すっごく熱くなっている…………

「(耳元でささやくよつて)…………だからね、おにーちゃんを、こうやってかわいがつてると、うつとりしちやうの…………はあ…………れろれろつ…………ちゅぶつ、れろれろつ…………んちゅつ、れろれろつ…………」

加奈

「（耳元でささやくようじ）……はあ。次は、なにをしてたつけ？ あのCD……。おにーちゃん、覚えてる？ ……ん？ あ、そつか。おちんちんをしごいてたね。耳を舐めながら……」

加奈

（耳元でささやくよう）…………あ、おーちやん、また仰向けで寝てくれる？」「

■ Track. 4 : おにーちゃんのおちやんをひつやつて握つて.....

「……………」
「それで、わたしもおーにあちゃんの隣に添い寝してつ
かねえよ。」

「...ルナナウル」

「（耳元でささやくよつて）…………じゃあ、おにーちゃんのおちんちんを…………ううん、もつとエッチな言い方するね…………」

「（耳元）だれかやべよ」「……お、ち、ん、ぽ……」の、おちんぽを「つかまって握って……んっ、すっく熱いね……それにやつぱり硬い……男の子って感じがする……」

「（耳元でささやくように）……」それが大人のおちんぽなんだ。うん。かつこいいよ。おにーちゃんのおちんぽ。わたし、大好き……えへへ……」

加奈

「（耳元でわざやくよう）…………じゃあ、えうと…………」
「…………」、「こんな感じかな？ 気持ちいいーーー？」
「うん。気持ちいいんだ。よかつた。えへへ…………」

「最初だからわづくりしてみるね…………」

「（耳元でわざやくよう）…………」
「…………」、「はあ…………」、「…………ひやう…………」
「…………？」

「（耳元でわざやくよう）…………今、おちんぽがぴく
ぴくって動いたよ？ 気持ちいいと動いちゃうの？
…………そなんだ。なんだかかわいいね。よしよし
…………なでなで…………」

「（耳元でわざやくよう）…………わづ、またぴくぴ
くって動いた。…………なでなで…………よしよし…………え？
「こ、かとうひで言つの？ 龜の頭の形をしてる
から？」

「（耳元でわざやくよう）…………そう言えば、あのCDでも亀頭って言つてたね。あと、うらすじ…………とかも言つてた。あ、うらすじって、おちんぽの裏側
の「ことなんだ…………」

「（耳元でわざやくよう）…………ん？ 裏筋がくすぐつたいの？ 敏感なんだね…………さわさわさわさわ…………」

加奈

「（耳元でささやく）…………わい。やつくり触る
と、おちんぽが跳ねるみたいに動くね…………面白い
な…………がふふうさわさわ…………さわさわ…………な
でなで…………なでなで…………」

「（耳元でささやくよ）…………」「やつてね…………お
に一ちゃんの耳元で囁きながら…………おちんぽをしご
しごしてたら、すつ」「ぐドキドキするの…………はあ…
…ああ…………」「

「（耳元でささやくよう）…………」のドキドキする感
じって……あ、そつか……わたし、興奮しちゃって
るんだあ……」んなエッチな」としながら興奮して
るう……れろひ、ちゅつ……！」

「（耳元でささやくよつて）…………だから、もつとHツ
チな」とするの…………」よつやつて、おちんぽをしげ
こしながら……耳、舐めるのお…………」

加奈

「(耳元でやややくように)……んちゅっ、れろつ……ちゅふっ……れろれろ……んちゅっ……れろつ、ちゅっ……れろれろ……ああ……おいし……おにーちゃんの耳、おじしいね……」

加奈

「(耳元でやややくよつに)……ちゅく……れろれろ……ちゅふっく……はあ……んつ……ああ……ちゅむっく……くちゅ……ちゅふっく……くちゅ……れろれろ……ちゅふっく……くちゅう……」

加奈

「(耳元でやややくよつに)……えくく……耳を詰めながらのこ……」……気持ちいー……えつ……聞かなくてもわかるだろ? 「うー……おにーちゃんの反応を見てたらわかるけど……」

加奈

「(耳元でやややくよつに)……気持ちよさそうな声、こっぽい出でる……でも、おにーちゃんの口から聞きたいな……。ね? 聞かせて? わたしのじーこー」、気持ちいーい、おにーちゃん?」

加奈

「(耳元でやややくよつに)……うん……うんっ。えくく。そんなに気持ちいいんだあー……。嬉しいなー……。じゃあ、続けるね……ちゅふくちゅ……れろり、ちゅつ……ちゅふっ、れろつ……」

加奈

「(耳元でやややくよつに)……こー……こー……こー……ちゅくん、ちゅむっくふつ……」……「あゅく……れろれろ……」

加奈

「(耳元でややくよつて) ちゅぱつ……れろれろ……
ちゅぱつ……くちゅ……ちゅぱつくちい……んんつ
……れろれろ……ちゅぱつ……」

加奈

「(耳元でややくよつて) ……ん、なあに? お
にーちゃん? もつと強くして欲しいのお? んつ
……わかった……」

加奈

「(耳元でややくよつて) ……し」「…………し」「
」「……あ、おにーちゃん、せつきより気持ちよせや
う……えくくつ……どんどん気持ちよくなつてね……
……なんでもしてあげるから……」

加奈

「(耳元でややくよつて) ……まほはさつきの続き
……耳舐め、だよ? んちゅつ、れろつ……はあ……
……んちゅつ、れろれろつ、ちゅつ……ちゅつ……れ
ろつ……はあ……れろれろつ……」

加奈

「(耳元でややくよつて) ……し」「…………し」に合わせ
て、舐めるのも激しくしてみよつか、おにーちゃ
ん? それがいい? ジやあ、やつてみるね……」

加奈

「(耳元でややくよつて) ……ちゅむつ、くちゅ、
れろん、はあんつ……ちゅぱつ、くちゅ、ん
んつ、ちゅぱつ……ちゅくつ、ちゅぱつ、んつ
……ちゅむつ、れろれろ、ちゅ……」

加奈

「(耳元でわざやくよつに)はあ。おにーちゃんの耳が、じちよぐちよになつちやつたわたし、もつと……もおーつと興奮してきたよお……。れられり、ちゅぱり……」

加奈

「(耳元でわざやくよつに)ちゅぱり、くちゅつ、れろれろつ……。ちゅくん、はああんり、ちゅぱり、くちゅる……。れろり、んむり、ちゅぱり、んふり、くちゅ、れろちゅぱり……」

加奈

「(耳元でわざやくよつに)んふうんつ、れろつ、ちゅぱり、れろれろり……。んちゅつ、んんり、ちゅあゆつ、ちゅぶり……。れろり、ちゅぶり、んふり、れろり、ちゅぱり……」

加奈

「(耳元でわざやくよつに)んー。もづ少しどイキヤう。イクつヒ……あ、えつと、セーえき? セーし。それが出わうつて」とだよね……?」

加奈

「(耳元でわざやくよつに)ん、わかつた。耳、舐めててあげるから、このまま出して、おにーちゃん……セーし、こつぱい出して……」

加奈

「(耳元でわざやくよつに)んつ、れる、ちゅぱり、くちゅ、じゅぶ、じゅぶぶつ、れろくちゅ、ちゅぱり、ちゅぱり、れろり……」

加奈

「(耳元でやややくように) わつ、先つちょがぶ
くつて膨らんだ! ? もう限界? ほんとに出ちや
うんだね.....! ジやあ、最後に耳たぶ、ちゅうつ
て吸つてあげる.....! 」

加奈

「(耳元でやややくように) んふつ、れろれ
ろつ、ほら、出しておにーちゃん.....! 妹にしこ
しこれながら情けなくイッちやうとこひ、見せて
.....! 」

加奈

「(耳元でやややくように) ちゅうり、り、り、り、
う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
う.....! 」

加奈

「(耳元でやややくように) んふつ、れろつ、
ちゅぱつ.....! ちゅぱつ、んはつ、れろつ、く
ちゅ.....! ちゅぱつ、れろちゅつ.....! ちゅう
う、う、う、う、う、う.....! 」

加奈

「(耳元でやややくように) 舐めながら、もつと
しここここここあげる.....! んちゅつ.....れろれ
ろつ.....! んぱつ.....んんつ.....れろつ、ちゅつ
う.....! 」

加奈

「(耳元でやややくように) ちゅぱつ! はあー
すつづづづづづづづづづづづづづづづづづづづづづづ
て見た。」んなにじつぱい出るんだ.....ねばねばし
てて熱い.....! 」

加奈

「(耳元でやややくよつて) いっぱい指につい
ちやつた。舐めてみてもいい、おにーちゃん? · · ·
うん。興味あるから……んちゅつ、れろつ……
ちゅつ……」

加奈

「(耳元でやややくよつて) · · ·不思議な味···で
も、好きな味かも···はあ···」

■Track. 5 : 舐めて綺麗にしてあげる



「(耳元でやややくよつて) · · ·おにーちゃんがぐつ
たりしてる···あの〇〇は、まだ続きがあつたけど
···わつやむとへ~」

加奈

「(耳元でやややくよつて) · · ·ん? わかつた。
じゃあ、少し休も? その間に、おちんぽを綺麗に
してあげるね」

加奈

「···んしょ。おにーちゃんは横になつて。えつと
···ティッシュ···え? 舐めて綺麗にして欲し
い? おモージ・ふ~り~」

加奈

「···ふえ~りつて何の? おちんぽを舐めたり、
しゃぶつたりする? それをふえ~りちおつて言
うの? ふ~ん、そ~なんだ」

加奈

「···なんだかエッチな名前だね。それで、おにー^{ちゃん}はフュラチオしてもうつて、初めて···だよ
ね?」

加奈

「……あの〇〇みたいな」とするの、初めてだって
言つてたし、彼女いた」とないし……。おにーちゃん、かっこいいのにね。わたしは、彼女いないほう
が嬉しいけど……」

加奈

「……あ、ううん。何でもないよ。えっと、じゃ
あ、わたしがお掃除フェラ……してあげるね……」

加奈

「……でも、上手くできなかつたら」「めんね。とにかく
く、やつてみる……裏側をゆっくり舐めて……れる
ろ？」「」

加奈

「……わっ。おちんぽ、すい」「跳ねたよ……
……イッたばかりだから敏感？ そうなんだ。ゆっくり
り舐めたつもりだけど……とにかく、続けるね……
」

加奈

「……れろっ……んちゅっ……んぱつ……んんっ……
れろっ、ちゅっ……んちゅっ……れろれろっ……
ちゅっ……んちゅっ……れろっ……」「」

加奈

「……んつ……れろっ、ちゅ……んんつ……ちゅぱつ
……れろれろっ……はあ……あ、こっちにもせーし
ついてる……れろっ……ちゅっ、れろれろっ……」「……

加奈

「……はあ。せーし……おいしく感じるようになつて
きたよ、おにーちゃん。じゃあ、今度はしゃぶつて
みるね……歯が当たらぬいようにして……はあむつ
……」

加奈

「……じゅぶつ、ちゅ、れろれろつ……んちゅつ、
ちゅぱ……んちゅ……れろつ、んちゅつ……れろれ
ろ、んんんつ……はぶつ……んちゅ……れろつ……
」

加奈

「……んつ? おつひぶなつくき? ももひいい
の、おにーひやん? ……なら、もつほ、ひてあへ
るね……」

加奈

「……んつ……れろつ、ちゅ……んんつ……ちゅぱつ
……れろれろつ……ちゅ、れろれろつ……ん
ちゅつ、ちゅぱ……んちゅ……」

加奈

「……はあ……おひいいつ……おひんひん、おひい
よお……れろつ、んちゅつ……れろれろ、んんんつ
……はぶつ……んちゅ……れろつ……」

加奈

「……んつ、ん……ちゅぱつ……せつせみた
いにおりくなつたね、おちんぽ」

加奈

「……そんに氣持ちよかつたんだ。いちお……綺
麗になつたけど……もうちょっと続ける? フヒラ
チオ……」

加奈

「……うん。いいよ。じゃあ、してあげるね。……
はあむつ」

加奈

「……はあ……んつ……んちゅつ……れろつ、ちゅ……
……んんつ……んふつ……ちゅぱ……ちゅ、ちゅ、れ
ろつ……」

加奈

「…………ひゅぱつ…………ちゅひ、んちゅひ…………れわれわひ
…………れわひ、ちゅぱつ、ちゅ…………んちゅ…………れ
ひ、ちゅぱつ、ちゅ…………れわひ、ちゅ…………れ
ひ、ちゅぱつ…………れわひ…………ちゅ…………れ
ひ…………」

加奈

「…………んぱつ…………ちゅぱつ…………またせーし、出しきた
…………?…………ふえ?…………「れ、ガマン汁つて!!!!!!」
ふうん、やうなんだ……」

加奈

「…………氣持ちいいと染み出でぐるの?…………ふふひ。
おちんぱつて、面白いね…………。ガマン汁、ペ魯ペ
ろつて舐め取つて、飲んであげるからね…………」

加奈

「…………はあむつ…………んちゅ…………んぱつ、れろ、ちゅ
ぱつ、ちゅくつ…………んんつ…………れろれろつ……
ちゅつ、れわひ…………ちゅぱつ…………れろれろひ……
ちゅつ…………」

加奈

「…………ん――?…………もつほ強ふひてほしい?…………ん、わはつ
ら」

加奈

「んぶつ――…………じゅふふふふつ――…………ひちゅ、くちゅ……
…………んんつ――…………れろれろ…………くちゅ……
ぐちゅ、ぴちゅ…………れろれろ…………はあ
ああ…………」

加奈

「ひちゅくちゅ…………んん…………そふひ……
じゅふふつ…………ぴちゅくちゅ…………れろれろ
…………ひちゅ…………れわひ、ちゅぱつ、ちゅ……
…………じゅりゅつ…………」

加奈

「……ちゅぱり。わたしのお口の中で、おちんぽがびくびく震えてる……凄い……！ ガマン汁もドンドン出てきて、舐めても舐めても追いつかないよ…」

「…………」んなの、フヨテヂオしているわたしが、すこ
いぐすり「ぐく興奮しちゃうよお………… はあああ…

「……わたしの身体が熱くなつて、もうとおちんぽ、
しゃぶりたくなつちゃう、……」

「んちゅ、れろり……はああ……じゅぱい、
くちゅ……！ んんり……はああ……じゅ
ぱい、くちゅ……じゅく……れろれろ……
……じゅぱい……」

「…………ちゅぱつ！ はああ………… おにーちゃんの乳首も一緒にいじつてあげるね………… たぶん、できると思つ、から…………」

「…………はむつ！ んちゅつ…………れろれろつ…………ん
ぶつ！？ おにーひやんの、ちくひを、さわつは
ら、おひんひんが、もつとおつひくなつはお！」

「…………じゅぶり、じゅうめいりー、ちくひもきもひ
じーのー、んふふふり…………もひほ、はわつへあへる
…………んつ…………じゅぶり、くちゅ…………じゅ
りゅう…………」

加奈

「おにーひやんの、ちくひ、ココココココココココココ
…！ ジョボッ…！ ジョボリ…！ ジョボリ…！ ジョボ
ぶつ…！ ジョボリ、ジョボリ…！」

加奈

「コココリ…コココリ…！ ひちよ、ひちよ…
…！ んふ…！ れるれる…！ ぐちよ、じゅ
ぶつ…！ ジョボリ…！」

加奈

「ひちよ…！ れるれる…！ ひちよ…
じゅりゅ…！ れるひ、じゅぶつ…！ ジュ
るひ…！ ジョボリ、ジョボリ、ジョボリ…
…！」

加奈

「んんつ…？ おひんひん、ひくひくつぐ、ふねへ
る！ セーひ、れそくなの…？ いいほつ…
わらひのくにらひて、おにーひやん…！」

加奈

「ちくひ、さわりなはらイカくであぐるほり、じつは
い、らひてえ…！」

加奈

「んつ…！ んぐつ…！ れるつ、ちゅぶつ、ちゅ
うつ、れろれろつ、ちゅううううううううううう
うう…！」

加奈

「んぶつ…！ んんつ…？ んつ、んんんんん…
…！ んぶつ、んぐつ、んん…！」

「…！」

「じゅふつ、くちゅ…………！ れろれろ…………！ じゅ

「シモボウ、ベヒム…… れるれろ…… シモ
ボウ、ベヒム…… んぶりごり…… シモ
ボウ、ベヒム……」

「ん——んちゅつ、れろつ……じゅりゅつ

「（精液を飲み干して） “ぐつ！ はあ――
……飲んじゃった……えへへ……。 いっぱい出たね、
おにーちゃん……」

「あつ♪ 射精したばかりなのに、まだおちんぽ大きくなつたままだね……」

「じゃあ……」のまま……おにーちゃんの身体に乗つ
「ちやうね……」

■Track. 6 : むくむきあがりヤックス……してあげるね

「…………んしようと…………はあああああー…………。あのCDの最後のシーン…………わざやきながらセックスしてたよね?…………だから…………わたしも…………してあげるね?同じコトする約束だから…………」

「……でも、入れる前に……ちょっとだけ……あつ……
……おまん」を自分で触っちゃうね……わたしのHチ
チなお汁で、いっぱい濡れると思うんだけど……
いちお——」

加奈

「…………んつ…………あ…………え？　あ、そつか。これ
オナニーって言うんだよね…………はあ…………おにーちゃ
んの顔が田の前にあるのに…………わたし、オナニーし
てる…………」

「……でも、ちゃんと準備しておかないと……おにーちゃんの……おつきいからあ……わたし、初めてなんだしへ……ぐちょぐちょに濡れてる方がいいよね……？」

「…………はあ…………ああつ…………あふつ…………んんつ…………氣持
ちいいよお、おにーちやああんつ…………はあ…………あ
ああ…………あああ…………」

「…………あつ。おにーちゃんが触つてくれるの？…………

わたしのおまんこ。じゃあ、触りやすいように、も

うちよつと上に行くね…………」

「（耳元でささやくよう）…………あ。 またおにーちゃんの耳の側に来ちゃったあ。…………え？ 触りやすい？ わたしのおまん」…………

加奈

「(耳元で囁かれて)…………あー、ねーちゃん
この指が…………ん、あー…………割れ田の内側を、
ぐちゅぐちゅうといじつてゐるよお…………おひれへて……
…………ふとおふる…………んん…………」

「（耳元でささやくよう）…………はつ…………あああ…………」
………… 気持ちいいよお…………あああ…………お漏らしして
るみたいに濡れちゃう…………あああ…………んつ…………」
…………

「(咲)片でわせやくよ(ア)」…………あひ、んひ…………はひ
…………おにーちゃんあんつ…………もひと、もひとお
おまえ」、じつぱじくちゅくちゅしてえ……あああ
…………!」

「(耳元でささやくよ)…………なんだか、すいの
来るつ……! 「れ、イクつと言つの? すい
よお……! ああ、ダメつ……! おにーちゃんに
おまんこじられて、イッちや! 」

「(耳元でささやくよう)…………んんんっ！　あふっ
…………んくっ、はっ…………ああああああ
しゅ『か』つたよお…………あああ…………今のがイクつて』
となんだね…………」

加奈

「（耳元でささやくように）……じゃあ、おにーちゃん。おちんぽを……わたしのおまんこに……入れちゃつてもいい？ あのCDみたいに……セックスしよお……」

加奈

「（耳元でささやくように）……あ、待つてね。わたしが自分で入れちゃうからね……」

加奈

「……」れ、騎乗位つて言うんだよね？ んつ……あつ……硬いおちんぽの先っちょが……おまんこの穴に当たつてる……」

加奈

「……んつ！ あつ……！ 入るつ……入つて、来るよお……！ ああつ……！ んつ、はつ、あああつ……！」

加奈

「……す、うい……！ おちんぽ、おつきいよお、おにーちゃんあああんつ……！ んんつ……！ ああああ……！」

加奈

「……う、うん？ わたし？ そう言えば、全然、痛くない、よ……！ むずむずする感じい……はああああ……！」

加奈

「……あつ！ 一番奥まで入つたああ……！ でも、『めんね、おにーちゃん……！ おにーちゃんのおちんぽがおつきすぎて……全部入らないよお……』

加奈

「……んつ、いいの？ 充分気持ちいい？……えへへ。よかつたあ。でも、わたしが動いたら、もつと気持ちよくなるよ、きっと……。じゃあ、動いてみるね……」

加奈

「……あつ、はつ……ああつ……じつ? おにーちゃん、んつ……死ぬほど気持ちいい? ……えへへ。わたしもね、すつ「ぐ気持ちいい……！あつ、あああ……」

加奈

「……だめ、身体、起」していられないよお……さつきみたいにおにーちゃんにもたれてもいい? うん、ありがとお……！」

加奈

「(耳元でわざわざくよつて) ……あつ、んつ……ゆづくらしてゐるのに……わたし、身体が溶けちゃいそつなんづくら、気持ちいいよお……！」

加奈

「(耳元でわざわざくよつて) ……セックスつて、す「おじ……はああ……ああつ……んんつ、はああ、んつ……！ んふうんつ、んつ、はつ……あつ、んつ、はつ……」

加奈

「(耳元でわざわざくよつて) ……あのCDでも、「ハやつて耳元でわざわざきながらHツチしてたけど……これ、すつ「ぐ恥ずかしいね……！ んつ、あつ、はああ……」

加奈

「(耳元でやれやくよう)」エッチな声を、「ん
な近くで聞かれちゃうなんて……あああ……恥
ずかしいナビ……興奮しちゃうう……はああ
あああ……」

加奈

「(耳元でやれやくよう)」はう……ん
んつ、はつ……あつ、やつ、んんつ……ん
ふつ、はんつ……んつ、はつ……あつ、
んつ……ああんつ……」

加奈

「……んつ……おにーちやあんつ……ちゅーし
よお……ちゅーしたじの……ちゅ、れ
ろつ、ちゅぱつ、んちゅ……れろ……ちゅつ……
れろれろつ、ちゅつ……ちゅつ……」

加奈

「じゅぱつ……んんつ……くちゅ……んふつ……れ
れる……んふつ……じゅぱつ……れろれろ……
はあんつ……じゅぱつ、くちゅ……じゅぱつちゅく
くちゅ……んん……」

加奈

「おまん」……突かれながら、ちゅーするの、すつご
く気持ち、いい……もつと、もつとしよお、お
にーちやあああんつ……んむつ、れろ、
ちゅつ、ちゅつ……ちゅぱつ……」

加奈

「はああ……んふつ、れろつ、ちゅつ……んふう
んつ、んんつ……はふつ、んんつ、れろれろつ
れろちゅつ……ちゅぱつ、はあああつ……
んちゅつ、れれろれろつ……」

加奈

「ちゅぱつ……ふえ？ おにーちゃんも動きたいの……！ わたしがしてあげるよ……ひやあっ！」

加奈

「（耳元でわざわざくよう）…………ああああっ……やつ、だめっ…………」「んなのつ、激しいよつ……！ 激すぎて、わたし、動けないよ……！ ああああ……！」

加奈

「（耳元でわざわざくよう）…………んつ、おにーちゃんは動かなくていいのつ…………ああっ…………だめっ、だめえええつ…………おちんぽ、凄いよおおつ…………！」

加奈

「（耳元でわざわざくよう）…………おつきくつ、硬くて、お腹の中がいつぱいになつてゐるのつ、ああ…………はつ、あつ…………ふう…………はあんつ、んんつ…………！」

加奈

「（耳元でわざわざくよう）…………こんなにされたら、おまんこが壊れちやうよおつ、んつ…………はつ、あつ、んつ…………おまんこ、壊れるつ、壊れるつううつ…………はつ、あああ…………！」

加奈

「（耳元でわざわざくよう）…………やつ、あつ、わたし、変だよ、おにーちゃんつ…………さつき、おまんこ…………じざられて、イッた時みたいな感じが、また来るぞう…………！」

加奈

「(耳元でやややくように)でも、その時より、
もうと感じ感じなの？ やつ、あつ、ああ
あつ..... また激しくなったああつ.....」

加奈

「(耳元でやややくように)おちんぽ、ホントに
凄いよお..... あああつ いいつ、気持ち
いいつ、おまんこ、いいのおつ.....」

加奈

「(耳元でやややくように)好き.....おにーちゃん
ん、好きなおつ 大好きだよおつ
あああつ ほんとに好き、大好きいじつ
....」

加奈

「(耳元でやややくように)ひあつ！ も、もつ
だめつ、イキやうだよお、おにーちゃんああんつ
.... あああああつ.....」

加奈

「(耳元でやややくように)おにーちゃんもイキ
そなうなの？ わたし、おにーちゃんのせー
し、いきぱい欲しじよつ だから、おまんこ
に、いきぱい出しちゃ.....」

「(耳元でやややくように)あつ、やつ、もつだ
めつ、ほんとにだめつ おにーちゃんの耳元
でエッチなことを、れれやきながら、イッちゃうの
おおつ.....」

加奈

「(耳元でやややくように)おまんこ、おま
んこ、おまんこ、イクのをおおつ イ
ク、イクイク.....」

加奈

[11]

「（耳元でささやく女の声）…………あああああ
ああああああああ…………うつぱい出でる…………熱い
セーし…………おまんこ」に、うつぱい…………丑うるわい
うへ、あああああ…………」

「(耳元でささやくよ)」…………はああああ…………まだまじ出でぬい…………サ一「おまこー」おまこー出

（耳元でささやくよう）…………ああああああ…………熱

「…………はあ…………はあ…………はあ…………いっぱい出た
ね…………おにーちゃん…………わたしも、すっ「くすっ「
く…………気持ちよかつたよお…………」

「…………はあー…………はあー…………はあー…………いじぱじ出た
ね…………おこーちゃん…………わたしも、すういへすういへ
く…………氣持ちよかつたよお…………」「…………

加奈

「……はあ……セックスして……中出しがれて……そ
の後、ちゅーするのって……幸せー……はあ…

加奈	「……おにーちゃん……好きだよお……だから、どこ にも行かないでえ……んちゅつ、れろれろつ…… 「……ひとり暮らしたら、「一ゆー」と……できな いよ? んちゅつ……れろつ……もつとしたいで しょ? 「一ゆーセックスう……」
加奈	「……わたしもしたいよお……だから、ね? ひとり 暮らしなんてやめて……んちゅつ……一緒に暮ら そ?」
加奈	「(耳元でしゃしゃく) ……わたしね……おにー ^{ちゃんの} 」と……ずっと好きだったんだよ?」
加奈	「(耳元でしゃしゃく) ……おにーちゃんと「 ^{」つ なりたいなつて……ずっと思つてたんだからあ… 」」}
加奈	「……はあ……くちゅ……れろれろ……ぴちゅくちゅ ……んんふ……ぴちゅ……ちゅぴちゅ……れろれ ろり、ちゅ……」
加奈	「……ん……? ひとり暮らしする理由? 教えて くれるのね……? んちゅつ……れろれろお……」
加奈	「……わたしの」とが? 好きすぎて? 襲つちやい そうだったから? ……なあーんだ。そんなの… 」

加奈

「（耳元で囁かれてやくよう）…………いつでも、襲っていく
れてよかつたんだよ？ だから……ね？」

加奈

「（耳元で囁かれてやくよう）…………ひとり暮らしやめる
なさい……おにーちゃんがしたい時に…………いつでもし
てあげる……ね？ ビーお？ おにーちゃん？」

加奈

「…………ふえ？ ひとり暮らし…………やめる？ ほんと？
…………えへへ。嬉しい…………ありがと、おにーちゃん
…………」

加奈

「…………ううセックスも…………もっと違うセックスも
…………うぱいしようね…………大好きだよ、おにーちゃん
…………んちゅっ」

（終幕）